

水は生き物にとって大切なもの

人骨を含めた生き物の祖先は何億年という大昔に水の中で生まれたと言われていいます。そのためか、人の体には体重の70%（新生児80%、成人70%、老人50%と人骨の水分量は徐々に減少してきます）ぐらいの水分を含んでいますので、水を飲まない人は生きていくことができません。他の生き物にとっても同じように水が無いと生きていけません。

全ての生き物にとって水というのは必要で無くなっては困るものなんですね。

しかし、人骨は水を外にも排出していることを忘れてはいけません。飲んだ水は体で要らなくなったものを含んで、おしっこや汗や便として外へ排出していきます。



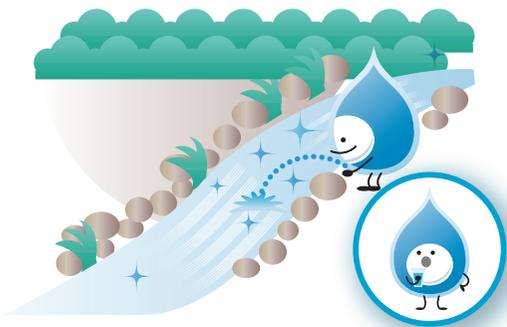
昔の環境

今の私たちの暮らしでは、水道から飲める水が出るのが一般的になっていると思いますが、日本では約100年より前には考えられないことでした。住んでいるそばには井戸があり、そこから飲み水をくんでいたり、川からくんでいるのが普通でした。もちろん洗濯や農業用水も井戸や川からひいた同じ水でしていたんですよ。

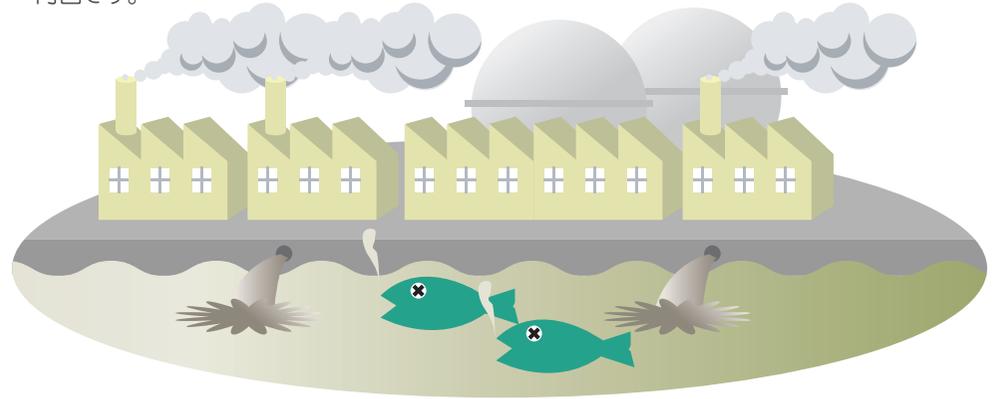
でも水をくむのは大変な仕事であり、水は貴重なものでした。川や井戸を汚したりたくさんくんでしまうと水が使えなくなってしまうのです。

また、日本人の主食である米や野菜を作るためにも水は大切なものですから、川を汚さずみんなで使っていくことが当たり前ルールになっていたんですよ。

では、そのころのおしっこや便はどこへいていたのでしょうか？川へ流していたり、肥料として使うためにためておいたりしていました。もちろん今みたいな水洗トイレはありませんでした。川へ直接流したら汚れるじゃない！と思うかもしれませんが、その頃の人口は今より少なかったことと、川が浄化してくれる能力が大きかったことから汚れてはいませんでした。



海や川の汚れは、1960年代（昭和30年代後半）になって工場の排水や人口が集中したことによる生活排水の汚れが原因でおきました。三重県では四日市公害による海の汚染（伊勢湾で獲れた魚から異臭がして、魚を食べることができなかったこともあります）が有名です。



そのころから人々の生活も豊かになり、石油からつくった化学製品や洗剤が増え、生活排水が原因で川は汚れはじまりました。

また、洪水を防ぐための河川工事により川がコンクリートで覆われたこと、経済のために海を埋め立てたこと、ダムにより海へ魚が運ばれにくくなり、瀬干や干潟を減少させたことは、川や海の浄化能力を弱めてしまい、汚れを増やす原因になったと考えられています。



汚れの原因の生活排水をきれいにするにはどうするかが考えられ、浄化槽、下水道コミュニティプラント等を家庭や地域につくって、水の浄化がはじまったのです。

皆さんの家では使った水をどのように浄化していますか？

